

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	北九州市立大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キタクユウシュウシリツダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	プロフェッショナルの仕事2
	学部・研究科等名	キャリアセンター
	担当教職員名・役職	見館好隆・教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	36
	受入企業等数	5
	受入企業等名	北九州市役所、日本放送協会(NHK)、株式会社大創産業、株式会社力の源ホールディングス(一風堂)、株式会社タカギ
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,4.他県をまたぐ広域インターンシップ,5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	5つの企業団体から、現場で抱えているリアルな課題をご提示して頂き、1団体あたり1~2グループがその課題解決案を策定・発表する。課題解決案一つ一つに対し、企業団体からルーブリックに基づいた評価を頂き、その評価が成績に反映される。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している,2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年生以上
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	教養教育科目の一つ「キャリア科目」の授業で、必修選択科目でもある。主に2年生を対象とし、特に「課題解決スキル」を獲得することを目的とする。同時に、課題をご提出いただいた企業や団体に対する知識を深め、将来の進路の一例として考察することも視野に入れています
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している,2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	企業団体の担当者様に教壇に立っていただき、時間をかけてその課題が生じた背景(課題提供団体の事業内容や業務内容、ライバル、顧客、企業団体が目指す方向性)をご説明していただいている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	企業団体から頂いた評価について、じっくり考え、振り返る最終レポートを出している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	授業中の中間発表前に、教員に対する相談時間を設けている。また、企業団体の担当者も随時質問ご対応いただくようお願いしている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている,2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている,3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	

	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	「課題の把握」「情報収集」「修正・改善」「説得力(ロジカルシンキング)」「創造性(クリティカルシンキング)」を企業団体が評価するルーブリックと、リーダーシップやチームワークをメンバー同士で評価するルーブリックを用いて成績を点けている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	全15回の授業として設計。5団体それぞれが教室にて、課題提示、中間発表とフィードバック、最終発表と最終評価を行います。
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	【第1回】挑戦する課題の決定、グループ分け、リーダー決定。【第2～4回】企業団体のご担当者にご登壇頂き、課題提示。【第5回】教員相談。【第6～10回】中間発表を行い、企業団体のご担当者から改善点を指摘して頂く。【第11～15回】最終発表を行い、企業団体のご担当者から講評を頂く。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業団体が大学生の力を借りて解決したい課題を選び、授業設計しているので、最終プレゼンテーションの内容はそのまま企業団体に利用していただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	見館好隆個人サイトに、シラバスとルーブリック、最終レポートをアップしておきました。 https://www.mitate-lab.net/teaching2
問い合わせ先	大学等名	北九州市立大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	教授
	担当者氏名	見館好隆
	電話番号	093-964-4014
	メールアドレス	mitate@dc4.so-net.ne.jp